

教 育 研 究 業 績

氏名 水谷 清佳

学位: 修士 (文学)

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
地域研究 (韓国)	韓国、朝鮮、妓生、大韓帝国、帝国日本、都市文化	
主要担当授業科目	韓国語作文 韓国語講読 ハングルの世界 韓国社会文化論 韓国語プレゼンテーション 専門ゼミナール1、2	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書・教材		
1. 『無条件真似する澤田の新日本語会話 基礎編』監修 安寿山・水谷清佳 著者澤田歩 国際語学研究所(韓国)	平成 17 年 5 月	日本語初歩学習者のための会話本。本を暗記すれば、基礎的で簡単な日常生活に必要な日本語を習得することができる。
2. 『無条件真似する澤田の新日本語会話 活用編』監修 安寿山・水谷清佳 著者澤田歩 国際語学研究所 (韓国)	平成 17 年 7 月	日本語中級学習者のための会話本。本を暗記すれば、日本での生活や日本人との会話を楽しむことができる程度の日本語を習得できる。
3. 『よく使うことばで学ぶ韓国語』イ・ユニ・水谷清佳 朝日出版社	平成 22 年 1 月	韓国語初歩者のためのもので全 20 課から構成されている。本文や例文に 韓国語の教育用コーパスから使用頻度の高い単語を選出し、効率の良い学習ができることを目指した。できるだけ日本語を介さない授業ができるように、単語習得に有意義なイラストを配置している。また、各課末には最新の言語教育の理論に沿った Task を配置することで、生き生きとした会話で毎課の学習目標が達成できるよう工夫した。
4. 『3分ドラマで覚える!らくらく韓国語 会話編』監修・著者イ・ユニ 著者 李忠均・水谷清佳 SPRING	平成 26 年 3 月	発音編、会話編の 2 部構成になっており、会話編を担当した。日本人の韓国語学習者が遭遇すると思われる場面を想定し、使用頻度の高い単語を中心に取り入れた 5 章構成の 3 分間ドラマ動画教材である。DVD 以外にテキストもある。
5. 『よく使うことばで学ぶ韓国語改訂版』イ・ユニ・水谷清佳・李南錦・崔英姫・陸俊秀 朝日出版社	令和 4 年 1 月	平成 22 年 1 月に出版した『よく使うことばで学ぶ韓国語』の改訂版である。新たに実践的に活用できる TASK を加えたほか、PPT 及び教授用資料も充実させた。
3 教育上の能力に関する大学等の評価	平成 21 年 7 月	「日韓比較文化論」授業評価履修者 17 名中 15 名 (80%) に対しアンケートを実施したところ、全体的に高評価を得ることができた。「日韓比較を様々な視点から学ぶことができ良かった」、「興味深い内容で自分の

	平成 21 年 1 月	文化について見直してみたくなった」という感想を得た。 「現代韓国論 B」授業評価 履修者 10 名中 8 名 (80%) に対しアンケートを実施したところ、「レベルが適切」、「興味が持てる」項目に関しては他の項目より評価が低かった。出席回数や授業への積極的な参加など、クラス内のモチベーションの差が大きく、その結果の表れだと思われる。しかし、「日本との関係や文化について詳しく学べた」、「面白かった」など授業内容に関しては良い評価を得ることができた。
	平成 23 年 7 月	「韓国語コミュニケーション II A」授業評価 履修者 11 名中 11 名 (100%) にアンケートを実施したところ、全体的に高評価を得ることができた。「とても優しく丁寧に指導して下さるので、とても分かり易く、楽しく授業を受けることができた」といった感想や「2 年になり前までできなかったことができるようになり、このペースを崩さずに頑張っていきたい」というコメントを得た。また、「テストでスキットを覚えるのはなかなか大変だったが、その分実力になっているような気がしているので、テストも必要」という意見があり、授業方法に手ごたえを感じることもできた。
	平成 25 年 7 月	「韓国語コミュニケーション IA」授業評価 履修者 10 名中 8 名 (80%) にアンケートを実施したところ、全体的に高評価を得ることができた。「分かりやすく、いつも楽しみながら授業を受けている」というコメントを受けた。
	平成 25 年 1 月	「韓国語コミュニケーション IB」授業評価 履修者 19 名中 12 名 (63.2%) にアンケートを実施したところ、全体的には高評価を得ることはできたが、授業内容の理解が全体的な評価に比べると低くなるという結果を得た。当年度の学生はレベル差が大きく、授業進行がスムーズにいったとは言いがたい点が多かった。確認試験を課すだけでなく、時間外学習を促すためにも e-learning を積極的に活用させたい。
4 実務の経験を有する者についての特記事項 1. 通訳案内士試験管担当	平成 20 年度～平成 22 年度	日本政府観光局主催の通訳案内士試験の韓国語面接官を担当。
2. TSU オープンカレッジ公開講座「韓国語入門」講師	平成 22 年 5 月～平成 24 年 2 月	韓国語初歩者のための文字、発音等の基礎的な内容を講義した。
3. TSU オープンカレッジ公開講座「韓国語初級」講師	平成 22 年 5 月～平成 24 年 2 月	韓国語初級者のための会話やアクティビティなどを取り入れ講義を行なった。
4. 市川昂高等学校韓国語講師	平成 24 年 4 月～平成 30 年 3 月	選択科目韓国語で、韓国語の文字、発音、基礎的な文法やアクティビティなどを取り入れた講義を行なっている。
5. TSU オープンカレッジ公開講座「ドラマで学ぶ韓国語」講師	平成 25 年 5 月～平成 26 年 2 月	CALL を使用しながらドラマを教材にした講義を行なった。
6. TSU 一般公開講座講師	平成 26 年 12 月 13 日	「韓国ソウルにおける文化の取り組み」について講義を行なった。

7. TSU オープンカレッジ公開講座「韓国語入門（前期）」講師	平成27年6月～平成27年8月	韓国語初歩者のための文字、発音等の基礎的な内容を講義した。
8. TSU オープンカレッジ公開講座「韓国語入門（後期）」講師	平成27年10月～平成27年12月	韓国語初歩者のための会話、基礎的な文法を講義した。
9. TSU オープンカレッジ公開講座「韓国語初級（前期）」講師	平成28年5月～平成28年7月	韓国語を学び始めて1年程度の学習者のための会話、文法を講義した。
10. TSU オープンカレッジ公開講座「韓国語初級（後期）」講師	平成28年10月～平成28年12月	韓国語を学び始めて1年程度の学習者のための会話、文法を講義した。
5 その他		

職 務 上 の 実 績 に 関 する 事 項

事 項	年 月 日	概 要
1. 資格、免許		
2. 特許等		
3. 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 韓国梨花女子大学校交換留学	平成12年3月～12月	大学3年次に梨花女子大学校にて交換留学。
2. 韓国延世大学校建築科学技術研究所補助研究員	平成17年9月～平成18年8月	延世大学校建築工学科建築空間計画研究室に所属し、研究活動及びプロジェクトに携わった。
3. 大阪市立大学文学研究科都市文化研究センター研究員	平成19年4月～平成20年3月	論文執筆等、研究活動に携わった。
4. 日本ポピュラー音楽学会編集委員	平成19年4月～平成20年3月	学会誌『ポピュラー音楽研究』の編集活動に携わった。
5. 大阪市立大学 G-COE 特別研究員	平成19年10月～平成20年9月	第2ユニット「文化創造ユニット」に所属し、研究活動及びタイ国立チュラロンコン大学にて発表を行なった。
6. 東京成徳大学 人文学部 助教	平成20年4月～平成23年3月	国際言語文化学科において助教として教育、大学業務に携わった。
7. 大阪市立大学都市研究プラザ特別研究員	平成20年4月～平成26年3月	主に上田貞治郎写真史料アーカイブ編纂室員として、特に韓国朝鮮に関わる史料研究に携わった。
8. シンポジウムコーディネーター「写真経験の社会史—「写真資料論」の可能性—」（大阪市立大学）	平成22年3月27日	上田貞治郎写真史料アーカイブの調査研究及びデジタルアーカイブ構築作業の経験を踏まえ、社会史的研究と写真資料論に日本写真史学の新たな可能性を求めたシンポジウムを開催した。各分野の研究者を招聘し各分野から考察を行なった。
9. 韓国・朝鮮文化研究会運営委員	平成23年10月～現在	研究大会の実行等、学会運営に携わる。
10. 科学研究費「基盤研究(A)」「帝国日本の移動と動員」研究分担者	平成25年4月～	今西一科研の研究分担者として韓国・朝鮮に関わる研究に携

11. 科学研究費「基盤研究 (C)」 「帝国日本による妓生集団の近代化に関する研究」	平成 29 年 3 月 令和 3 年 4 月～	わる。 帝国日本が法的・政策的に妓生を伝統的な芸人として公認したことを明らかにし、大韓帝国期及び植民地期における帝国日本による妓生集団の近代化及び肯定的な影響を考察する。
4. その他 第 1 回研究奨励賞 大阪市立大学文学部・文学研究科教育促進支援機構 韓国リテラシー学会学術賞受賞	平成 17 年 令和 4 年	受賞作「韓国ソウル・大学路のストリート・ミュージックからみるマダンの文化」『民族藝術』21。 受賞作「『妓生及娼妓ニ関スル書類綴』の既存解題分析及び誤謬訂正に関する研究」『リテラシー研究』第 13 巻第 3 号。

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
(著書) 4. 『北東アジアのコリアンディアスポラ：サハリン・樺太を中心に』今西一編著	共著	平成 24 年 3 月	小樽商科大学出版会	平成 22 年に中国延辺において実施した朝鮮族への聞き取り調査内容を掲載した。「第 7 章 延辺朝鮮族のライフヒストリー聞き取り」中、「柳玉哲氏からの聞き取り」、「金粉蝶氏からの聞き取り」担当。
5. 『写真経験の社会史』後藤真・緒川直人編	共著	平成 24 年 5 月	岩田書院	平成 22 年に開催した「写真経験の社会史」シンポジウムの報告とそれ以降の研究成果を盛り込んだ論文集。「本書の経緯」を執筆担当。
7. 「第 7 章 植民地朝鮮における妓生の再組織化と社会的活動」『帝国日本の移動と動員』今西一・飯塚一幸編	共著	平成 30 年 2 月	大阪大学出版会	妓生が組合や券番として再組織される大韓帝国期と植民地初期を中心に、彼女らが社会人として蘇ろうとする努力としての社会活動を主に新聞記事を使用し明らかにした。
(学術論文) 1. 「ストリート・ミュージシャンの活動を通してみる都市空間の歴史の変遷—ソウル・大学路を事例として—」	単著	平成 16 年 3 月	大阪市立大学大学院文学研究科アジア都市文化学専攻修士学位論文	韓国ソウル大学路の形成過程を追いながら、その中で生きる人々の活動を記述し、大学路の社会的な位置を明らかにすることで、現代韓国文化の一側面について論じた。場所の社会的な位置づけは、意図的に付与されたものよりもその場所で活動する者の方がより強い意味づけをなし、様々な人がそれぞれの活動をもって大学路という空間を成立させているのではないかという結論に至った。
2. 「韓国ソウル・大学路のストリート・ミュージックからみるマダンの文化」	単著	平成 17 年 3 月	『民族藝術』21 185-192 頁 民族藝術学会	ソウルの大学路で活動するストリートミュージシャンの活動とマダン劇から取り上げた要素を比較し、現代にも「マ

<p>3. 「The study on the formation process of Madang in modern city -A case of Nori-madang in Songpa seoul, Korea-</p>	<p>単著</p>	<p>平成 19 年 3 月</p>	<p>『CHALLENGES FOR URBAN CULTURAL STUDIES 』 pp. 93-100 COE, Urban-Culture Research Center</p>	<p>ダンの文化が存在していることを明らかにした。 マダンの変化を松坡山台ノリとソウルノリマダンを事例に、関連性、断絶、政府の目論見などの歴史を辿りながら明らかにした。</p>
<p>4. 「マダン」という文化空間についての一考察 —一九八〇年代ソウルにおける民衆と政府の観点から」</p>	<p>単著</p>	<p>平成 19 年 10 月</p>	<p>『韓国朝鮮の文化と社会』6 216-232 頁 韓国・朝鮮文化研究会</p>	<p>文化空間という視点からマダンという言葉をとりにまく 1980 年代の動きを、民衆及び政府の両観点から比較検討し、民衆と政府が互いにどうせめぎ合い歩み寄りながら文化空間を創造していったのかを明らかにした。</p>
<p>5. 1980 年代韓国ソウルにおける文化空間の意味をめぐる葛藤 —大学路「車のない道」を事例に—</p>	<p>単著</p>	<p>平成 20 年 3 月</p>	<p>『都市文化研究 Vol. 10』67-80 頁 大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター</p>	<p>1980 年代に韓国ソウル大学路で行なわれた「車のない道」(＝歩行者天国) の開放から閉鎖までの利用実態を明らかにし、ソウルの人々がどのように文化空間を享受し、意味づけをしていったのかを新聞記事と語りを資料に分析した。結果として 1980 年代のソウル市における文化空間は、行政とソウル市民という対極の間に存在し、行政対ソウル市民、市民の間でも社会階層間で空間への意味づけをめぐる葛藤が生じていたことを明らかにした。</p>
<p>6. 「マダン」研究のための予備的考察</p>	<p>単著</p>	<p>平成 21 年 3 月</p>	<p>『東京成徳大学研究紀要—人文学部・応用心理学部—』第 16 号 51-57 頁 東京成徳大学</p>	<p>マダンの研究史を論じるための予察として、建築学及び人文学という学問分野のなかで特に「庭」、「ノリマダン」、「マダン劇」の三つについて、研究動向の概観、中心的となる論点、汎用性の高い文献の発見を明らかにするため順次概観した。</p>
<p>7. 韓国ソウル大学路における文化地区指定とソウルストリートアーティスト事業</p>	<p>単著</p>	<p>平成 23 年 3 月</p>	<p>『東京成徳大学研究紀要—人文学部・応用心理学部—』第 18 号 93-110 頁 東京成徳大学</p>	<p>ソウル大学路が文化地区に指定されるまでの背景を辿りながら現在の大学路の文化空間がどのように構成されているのかを演劇やソウルストリートアーティスト制度に関連付けながら明らかにした。結果として文化地区市制定以後大学路を構成する役割が細分化され、管理体制と内実の不一致がみられることを指摘した。</p>
<p>8. 地域学研究としてのソ</p>	<p>単著</p>	<p>平成 24 年 3 月</p>	<p>『東京成徳大学研究紀要</p>	<p>地域学の視点から概観した韓国におけ</p>

<p>ウル学と日本におけるソウル研究</p>			<p>一人文学部・応用心理学部一』第18号 97-113頁 東京成徳大学</p>	<p>るソウル学研究及び日本におけるソウル研究について整理した。日本におけるソウル研究と韓国におけるソウル学では、問題関心が異なり、韓国は歴史を中心に研究され、日本では清溪川に関する研究に集中していたことが明らかになった。</p>
<p>9. 音楽生成の場としての「マダン」－「マダン」から「コリ」へ－</p>	<p>単著</p>	<p>平成26年7月</p>	<p>『日本のポピュラー音楽をどうとらえるか3－文化装置としての東アジア一』55-70頁</p>	<p>平成26年1月25日に開催された公開シンポジウム「日本のポピュラー音楽をどうとらえるか3－文化装置としての東アジア一」における報告をまとめたものである。</p>
<p>10. 韓国ソウル市におけるストリートアーティストの変遷と活動－市事業から自立型アーティストへ－</p>	<p>単著</p>	<p>平成29年3月</p>	<p>『東京成徳大学研究紀要－一人文学部・応用心理学部一』24 147-158頁 東京成徳大学</p>	<p>韓国ソウル市のストリートアーティストの実態を把握するため、財団の事業から始まった登録制ストリートアーティストを対象とし、特に2012年から2015年に焦点を当て、彼らの変遷や活動を明らかにした。</p>
<p>11. 「女楽を伝承した芸人としての妓生に対する歪曲に関する研究Ⅰ－妓生と性病検査との関連性及び実施可否を中心に－」</p>	<p>共著</p>	<p>平成31年2月</p>	<p>『東アジア文化研究』76集 13-56頁 漢陽大 学校東アジア文化研究所</p>	<p>1906年2月から1908年6月まで実施された統監府主催の性病検査で妓生(官妓)はその対象ではなかったことを明らかにした。また、大韓帝国期及び植民地時代に全国の妓生を対象にした公式・定期的な性病検査は実施されておらず、このような帝国日本の性病検査の実施計画は衛生上の安全処置に過ぎなかったことを指摘した。</p>
<p>12. 「女楽を継承した芸人としての妓生像に関する研究－『妓』を『娼』とみなした『近代記録者たち』による妓生の意味の変質を中心に－」</p>	<p>単著</p>	<p>平成31年3月</p>	<p>『東京成徳大学研究紀要－一人文学部・応用心理学部一』26 59-75頁 東京成徳大学</p>	<p>高麗時代と朝鮮時代の「妓」と「娼」の概念と用語の関係性を記録資料を使用しながら整理し、朝鮮開国後の「娼」の意味の変質と大韓帝国期に「妓」と「娼」の意味が二分される過程を考察した。それを通して「妓」を「娼」とみなした「近代記録者たち」による妓生像の変質を明らかにした。</p>
<p>13. 「李能和の『朝鮮解語花史』による妓生史及び妓生像の歪曲に関する研究Ⅰ－李能和の親日反民族行跡と新羅時代の歪曲を中心に－」</p>	<p>単著</p>	<p>令和2年2月</p>	<p>『文化と融合』42巻2号 565-597頁 韓国文化融合学会</p>	<p>李能和の生涯及び新羅時代の源花と妓生との関連性、金庾信と天官女の逸話に登場する天官女の社会的属性、売春風俗の存在有無を検討した。結果、『朝鮮解語花史』において妓生は娼女とみなされており、学術的な誤謬が多いことが明らかになった。これまで定説のように扱われてきた本書の引用に対す</p>

<p>14. 「女楽を伝承した芸人としての妓生に対する歪曲に関する研究Ⅱ 一妓生と公娼制度との関連性を中心に」</p>	<p>単著</p>	<p>令和2年6月</p>	<p>『韓国学』 vol143 no. 2 通巻 159 号 7-60 頁 韓国学中央研究院</p>	<p>る危険性を指摘した。 大韓帝国及び植民地期における韓半島の妓生は日本帝国による公娼制度の枠から外れていたことを明らかにした。韓半島の妓生は公娼制度に含まれていたと論じる既存研究の誤謬を指摘した。</p>
<p>15. 「大韓帝国期の妓生に関する研究史検討及び今後の研究課題」</p>	<p>単著</p>	<p>令和2年6月</p>	<p>『韓国古典女性文学研究』 40 集 305-355 頁 韓国古典女性文学会</p>	<p>既存の大韓帝国期の妓生に関する研究を4つのカテゴリーに分類して分析し、今後の研究課題を挙げた。大韓帝国期の妓生に関する近代新聞のデータベース構築の現状を整理した。</p>
<p>16. 「李能和の『朝鮮解語花史』による妓生史及び妓生像の歪曲に関する研究Ⅱ-三牌の‘社会的属性’変遷過程及び蝸甫としての歪曲を中心に」</p>	<p>共著</p>	<p>令和2年12月</p>	<p>『韓国音楽史学報』 65 集 177-232 頁 韓国音楽史学会</p>	<p>李能和により三牌は蝸甫または遊女とみなされてきたが、実際には朝鮮時代後期に賤民芸人集団として登場し、大韓帝国期には芸娼妓として扱われた。植民地初期 1916 年に朝鮮総督府により専門芸人集団として公認された、新しい妓生であったことを明らかにした。</p>
<p>17. 「大韓帝国期及び植民地期在韓日本人たちによる妓生史及び妓生像の歪曲に関する研究-恒屋盛服と今村鞆による‘歪曲された妓生の定義と分類法’『妓生=蝸甫, 売春婦, 一牌, 二牌, 三牌』を中心に」</p>	<p>共著</p>	<p>令和3年9月</p>	<p>『文化と融合』 43 卷 9 号 779-802 頁 韓国文化融合学会</p>	<p>李能和は『朝鮮解語花史』(1927年)に『朝鮮開化史』と『朝鮮風俗集』の「妓生=蝸甫・売春婦：一牌、二牌、三牌」の内容をそのまま使用し、それを「妓生=蝸甫・遊女：一牌(妓生)、二牌(殷勤者・隠君子)、三牌(搭仰謨利)」に細分化した。しかし本研究によりこのような「歪曲された妓生の定義と分類法」は大韓帝国期及び植民地期の在韓日本人たちによって恣意的に作られたことが明らかになった。</p>
<p>18. 「大韓帝国期における妓生と三牌の概念的区分に関する研究-妓生と三牌の法的・政策的・社会的属性と概念的差異-」</p>	<p>単著</p>	<p>令和3年11月</p>	<p>『文化と融合』 43 卷 11 号 539-562 頁 韓国文化融合学会</p>	<p>三牌は①1899年三牌を含む娼女の廃止(妓生除外) ②1904年集娼(妓生除外) ③1906年性病検査(妓生除外) ④1907年売淫税徴収(妓生除外) ⑤1908年「娼妓団束令」による公娼制度への編入などのように大韓帝国政府と統監府から芸娼妓として統制・管理され、法的・政策的・社会的認識の面においてむしろ「妓生」とは異なる属性を持っていた集団だったことから朝鮮社会と朝鮮人は三牌を妓生として扱わなかったことが明らかになった。</p>

19. 「植民地時期における 妓生と三牌出身の概念的 区分に関する研究—妓生 と三牌出身の法的・政策 的・社会的属性と概念的差 異—」	単著	令和3年11月	『東アジア文化研究』第 87巻 197-230頁 漢陽大学校東アジア文化 研究所	植民地期を2つの期間（第1期：1910 年8月29日～1916年5月19日、第2 期：1916年5月19日～1923年8月） に分類し①第1期に存在した三牌出身 は妓生ではなかった②第2期に存在し た三牌出身が中心となった新彰妓生組 合（京和券番）の妓生は朝鮮総督府に より新たにつくられた妓生であるとい うことが明らかになった。
20. 『妓生及娼妓ニ関スル 書類綴』の既存解題分析及 び誤謬訂正に関する研究	単著	令和4年6月	『リテラシー研究』第 13巻第3号 461-494頁 韓国リテラシー学会	1992年から2015年まで作成された 『妓生及娼妓ニ関スル書類綴』に関す る既存の4つの解題の現況を考察し た。特に1992年『日帝文書解題選集』 の解題と2000年『日帝文書解題—警務 編』の解題を中心に分析し、学術的な 誤記、誤謬を指摘、訂正した。
21. 『妓生及娼妓ニ関スル 書類綴』を活用した先行研 究検証及び誤謬訂正—ファン ボミョン(2004)の『植民 地権力による体の統制』を 中心に	単著	令和4年8月	『アジア文化研究』第 59巻 63-91頁 嘉泉大学校アジア文化研 究所	『妓生及娼妓ニ関スル書類綴』を積極 的に活用した研究のうちファンボミョ ンの2004年の論文から発見される多様 な学術的誤謬、誤読、誤記を『妓生及 娼妓ニ関スル書類綴』の分析を通して 指摘、訂正した。
22. 『妓生及娼妓ニ関スル 書類綴』を活用した先行研 究検証及び誤謬訂正に関 する研究—ソンバンソン (2003)の『漢城妓生組合所 の芸術社会史的照明』を中 心に	単著	令和4年9月	『歴史と融合』第12巻 157-188頁 バルン歴史 学院	『妓生及娼妓ニ関スル書類綴』を積極 的に活用した研究のうちソンバンソン の2003年の論文から発見される多様な 学術的誤謬、誤読、誤記を『妓生及娼 妓ニ関スル書類綴』の分析を通して指 摘、訂正した。
23. 『妓生及娼妓ニ関スル 書類綴』の解題と’近代式 妓生制度の始まり’に関 する研究—1908年9～10 月、1909年3月に作成し た’妓生関連書類’を中 心に	単著	令和4年12月	『韓国音楽史学報』第 69巻 165-213頁 韓国 音楽史学会	『妓生及娼妓ニ関スル書類綴』を構成 している4種類の文書群のうち2番目 の文書群である「妓生団束令」の制 定、準備から発令、施行、細部指針、 申告書様式などの妓生関連書類を中心 に解題した。
24. 『妓生及娼妓ニ関スル 書類綴』の解題と’妓生た ちの国内外公演活動’に関 する研究—1905年5月に作 成した’妓生関連書類’ を中心に	単著	令和4年12月	『歴史と融合』第13 巻 231-276頁 バルン歴史学院	『妓生及娼妓ニ関スル書類綴』を構成 している4種類の文書群のうち、漢城 妓生組合妓生の日本巡回公演及び開城 公演の企画から統監府警視庁の請願及 び認可に至るまでの過程と関連内容が 記録されている「漢城妓生組合妓生の 日本巡回公演及国内開城公演に関する

				書類」を中心に解題した。
(その他)				
1. ストリートミュージシャンの活動を通してみるソウル・大学路の変容：80年代後半を中心に	単独	平成 15 年 9 月 20 日	日本ポピュラー音楽学会 関西地区第3回研究例会 発表（於：関西大学）	1980 年代に若者が大学路で歌った歌、歌う行為を中心に取り上げ、そこから大学路の社会的な位置を考察した。
2. 「ニュース講演：都市文化としてのタイ伝統音楽」	単著	平成 16 年 2 月	『都市文化研究』 P. 246-248 大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター	タイ・チュラロンコン大学教授による音楽療法のひとつとして民族楽器を使用する試みを英語で講義したものを日本語に翻訳しまとめたもの。
3. ストリート・ミュージシャンの活動を通してみる都市空間の歴史の変遷—ソウル・大学路を事例として—	単独	平成 16 年 5 月 8 日	日本音楽学会 312 会関西例会発表（於：大阪市立大学文化交流センター）	韓国・ソウル「大学路」で活動するストリート・ミュージシャンを対象とし、大学路の歴史の変遷を追いながら彼らが活動場所に対してどのような意識を持っているのかを明らかにした。ストリート・ミュージシャンにとって「車のない道」の経験が、大学路で活動することに大きな関係がある。ミュージシャンの大学路に対する意識は「車のない道」の経験によって創造され、「アジュール」としての空間の意味を共有した意識が、現在のマロニエ公園へも引き継がれていることが分かった。
4. 大学路の歴史の変遷—一九八〇年代「車のない道」を中心に—	単独	平成 16 年 10 月 30 日	韓国・朝鮮文化研究会第 5 回大会発表（於：慶応義塾大学）	1980 年代に韓国ソウル大学路で行なわれた「車のない道」（＝歩行者天国）の開放から閉鎖までの利用実態を明らかにし、ソウルの人々がどのように文化空間を享受し、意味づけをしていったのかを新聞記事と語りを資料に分析した。
5. ストリート・ミュージシャンが形成するコミュニティ—韓国ソウル・大学路を事例として—	単独	平成 16 年 11 月 28 日	日本ポピュラー音楽学会 第 16 回大会発表（於：東京芸術大学）	現在大学路で活動するストリート・ミュージシャン同士がどのようなコミュニティを形成しているのかを明らかにした。フィールドワーク調査によれば、ミュージシャンたちは演奏方法、大学路に対する思い、「車のない道」の経験などの理由から三つの類型に分類することができる。さらにその中でも「車のない道」を経験した者同士でコミュニティを形成しており、それは彼らの属性に大きな理由があることが明らかになった。

6. 「地域伝統文化伝承発展の場所に関する考察ーソウル市松坡区ソウルノリマダンを事例にー」(韓国語)	単著 単独	平成18年10月	『国際学術シンポジウム 地域芸術文化の発展戦略』韓国嶺南大学校(於:韓国嶺南大学校)報告書・発表	ソウルノリマダンの歴史を振り返り、現在の利用方法、観客の実態、管理の実態などを調査し、地域伝統文化発展のためには場所の歴史を伝える必要性があることを発表した。
7. 「都市におけるマダンの意味に関する考察」	単独	平成18年10月28日	韓国・朝鮮文化研究会第7回大会発表(於:東京大学)	マダンという言葉の概念をまとめ、実際にソウルに存在するマダンの事例をあげながら現代都市空間におけるマダンの意味を報告した。
8. 「都市問題と公園ー宗廟公園そして天王寺公園ー」(韓国語)	単著	平成19年4月	『季刊都市改革』経実連都市改革センター 34-38頁(韓国)	ソウルの都市問題のひとつとなっている宗廟公園の利用方法・管理を調査し、類似した経緯を持った天王寺公園と比較することで、天王寺公園で起こった結末が宗廟公園でも見られるかもしれないという警告を著した。
9. 現代都市におけるマダンの意味ー1980年代のマダン劇を中心にー	単独	平成20年2月17日	第256回朝鮮近現代史研究会発表(於:神戸市立中央図書館内 青丘文庫)	1970年代後半から1980年代にかけて韓国では空間の意味を表わす「マダン」という言葉が頻繁に使用されるようになった。特に学生の間では「マダン劇」が活発になり、政府は「マダン」と名前のつく文化空間(屋外公演場)を作るなど、学生と政府の間では共通した言葉を使いながら空間を作っていた。本発表では「マダン劇」をめぐる市民と政府との葛藤を通して、その時代における「マダン」とはどのようなものだったのかを明らかにした。
10. Historical Transition of Urban Space in Daehakro and its Cultural Implication	単独	平成20年3月4日	The 6th International Academic Forum in Bangkok “Reflections on Modernization from the Historical Urban Landscape Perspective”, Thailand Chulalongkorn University	本発表では韓国ソウルの「大学路」という幹線道路であり地区の名前にもなっている空間を例に挙げ、韓国において文化空間の形成がどのような過程を経てきたのかを明らかにした。特に韓国国内で文化空間の形成が活発化する直前の1970年代から現在に至るまでの時期を対象に扱った。まとめとして歴史的な場所に注目するだけでなく、その中で行なわれる様々なパフォーミングアーツやその変遷も都市文化の一部として評価されるべきであるということを提唱した。
11. 韓国社会におけるマダン	単独	平成22年9月12日	関西学院大学大学院社会学研究科 大学院GP	韓国における「マダン」の語用法を紹介し、韓国社会における「マダン」の

12. 『アジアのポピュラー音楽 グローバルとローカルの相克』井上貴子編著	共訳	平成 22 年 11 月	勁草書房	「東アジアのストリート の現在」研究班 「路上 と広場ー＜マダン＞から 眺める東アジアの現在」 研究発表（於：京都市民 総合交流プラザ）	変容を時系列的に提示した。かつてス トリートミュージックの中に見られた 「マダン」的な空間も現在では「ソウ ルストリートアーティスト」制度によ り管理・規制され、本来の意味が失わ れつつあることを明らかにした。
13. 『移住型植民地樺太の 形成』三木理史著	共訳	平成 24 年 10 月	塙書房		シン・ヒョンジュン 第3章「韓流ポ ップの現状」翻訳単独担当。
14. 音楽生成の場としての 「マダン」ー「マダン」か ら「コリ」へー	単独	平成 26 年 1 月 25 日	成城大学グローバル研究 センター公開シンポジウ ム「日本のポピュラー音 楽をどうとらえるか3ー 文化装置としての東アジ アー」（於：成城大学）		韓国における「音楽の生成の場」とし て台頭してきた「マダン」が現在では ストリートとしての「コリ」へと変化 している様子をストリートアーティスト （バスカー）の活動やそれに関わる 行政等の取り組みを報告した。
15. 韓国ソウル市におけ る「ストリートアーティ スト/バスカー」をめぐる取 り組み	単独	平成 26 年 12 月 7 日	日本ポピュラー音楽学会 第 26 回大会（於：学習 院大学）		韓国ソウル市において「ストリートア ーティスト」もしくは「バスカー」と して活動する人々の公演環境をめぐる 取り組みを、管理団体へのインタビュ ー調査を通して明らかにした。まとめ として彼らの活動はそれぞれの取り組 みのなかで、文化や産業振興等、地域 活性化のツールとして利用されている ことを指摘した
16. 韓国の 4・3 真相糾明運 動と国家安保（通訳）	単独	平成 27 年 10 月 25 日	今西一科研 2015 年国際 シンポジウム「敗戦 70 年ー東アジアの脱植民地 化ー」（於：キャンパス プラザ京都）		韓国済州大学校趙誠倫教授の報告を通 訳した。
17. 済州 4・3 と韓国社会、 そして国家安保	単訳	平成 28 年 7 月	『商学討究』67(1) 50-64 頁		韓国済州大学校趙誠倫教授の論文を翻 訳した。
18. 大韓帝国期における 妓生をめぐる環境と社会 活動	単独	令和元年 10 月 26 日	韓国・朝鮮文化研究会第 20 回研究大会（於：東 北学院大学）		大韓帝国期における妓生をめぐる環 境の変化及び 1897 年から 1908 年 までの妓生の社会活動を『独立新聞』、 『皇城新聞』、『帝国新聞』、『大韓 毎日申報』、『万歳報』をもとに教 育活動、社会的な主張、慈善演奏及 び寄付活動、愛国活動の 4 つのカテ ゴリーに分類し考察した。

19. 植民地朝鮮における妓生の再組織化と社会的活動	単訳	令和5年3月30日	『歴史と融合』第14集 P. 157-188 バルン歴史学 術院	今西一・飯塚一幸編『帝国日本の移動と動員』「第7章 植民地朝鮮における妓生の再組織化と社会的活動」を韓国語訳した。
20. 近年の妓生研究動向及び今後の研究方向性	単独	令和5年12月9日	韓国教坊文化学会2023年冬季学術大会	近年の妓生研究動向及び今後の研究方向性とともな妓生史及び妓生象が曲説されていった系譜について報告した。